

令和5年度

授業創造プラン

日野市立仲田小学校

1 方策の柱

基礎・基本の定着と学ぶ意欲の向上

- 授業の始め・終わりの時間の厳守や授業規律の確立
- 全ての児童が共に「学ぶ力」を高め、友達と協力して課題を解決する、主体的・対話的な学びを取り入れた学習活動の工夫
- ガイドラインに基づく習熟度別指導による、算数科の習熟度に応じた指導・学習内容の工夫
- 各教科評価テストの分析結果や、児童の実態に基づく、授業改善プランの策定・実施
- 基礎的・基本的な事項の徹底
- UD化の環境・授業づくりを推進し、全ての子供が参加でき、命の大切さを実感しながら理解・習得・活用できる学力の育成
- 学習者用端末活用をした、多様な実践

2 具体的な方策・取組

(1) 国語科の授業創造プラン

①言葉の学習の充実を図る。

- ・日常生活の中でも辞書を活用し、分からない言葉を調べたり説明したりする活動を意図的に取り入れる。
- ・文章の暗唱をしたり、漢字指導の中で熟語を使った短文を作ったりして語彙を豊かにする。
- ・漢字やカタカナは、チャレンジタイムなどを活用し、繰り返しの練習を重ねる。また、デジタル教科書のコンテンツ、ドリルパークを利用するなどして、習熟を図る。
- ・漢字の成り立ちや意味、似ている漢字や同じ部首をもつ漢字など関連付けながら指導することで、興味をもたせていく。
- ・図書の時間などを通して、様々な分野の本を手に入る機会を増やす。読み聞かせ、本の紹介、ブックトークなどの読書指導を通して、本への興味を促し、すすんで読書をしたいという意欲と自分の力で文章を読める力を育てていく。
- ・春と秋に読書週間を設定し、読み聞かせや本の紹介、図書委員会による本の紹介・読書郵便などの活動を行う。また、「親子読書」の取組を行い、家庭での読書の習慣を身に付けるための啓発を行う。

②「話す力」を高める。

- ・児童が自ら話合いたいという意欲をもてるように、話す話題や相手を工夫する。
- ・指導の過程を工夫し、1単元で複数回の話合いを経験させたり、他教科との連携を図ったりすることで、学習したことを生かせるようにしていく。
- ・少人数の話合いを多く取り入れ、思いを伝えたり内容を聞き取ったりする指導を行う。また、全体の前での話し方を身に付けさせるためにスピーチや発表の機会を多く取り入れていく。学習者用端末を活用するなどして、自己のスピーチや発表の自己評価や相互評価を行い、実際の発表に生かせるようにする。
- ・自分の意見や考えをもつ時間を確保してから話合いを始めるなど、自分の考えをしっかりと持ち、話合いにすすんで参加できるように指導を徹底する。
- ・学習者用端末を活用し、考えの根拠を示したり、いくつかの考えを分類したりしながら、効果的に話合いをすすめることができるようにする。
- ・話すことが苦手な児童には、話合いや発表の話型を示したり手本を見せたりすることで、活動の見通しをもたせる。

③「聞く力」を高める。

- ・各学年で身に付けさせる力をはっきりさせ、学校全体で系統的に指導していく。
- ・「聴写」を取り入れたり、大事な言葉を反復して話させたりすることにより、聞く力を向上させる。
- ・メモの取り方を発達段階に合わせて指導し、実際の聞く場面に生かしていく。
- ・話を聞く時は、「目・耳・心・最後まで」の合い言葉を全校で統一して指導を行い、聞く力を育てる。

④「書く力」を高める。

- ・どの学年でも、発達段階に合わせて題材の設定→構成→考えの形成、記述→推敲→共有という学習の過程を押さえた指導を行う。また、児童がすすんで書きたいと思える題材を工夫する。
- ・目的に応じて、全体の構成を意識した文章の書き方を指導するとともに、視写、作文、日記などを取り入れ、経験したことや考えたことを文章に表す機会を増やしていく。
- ・作文指導では、助詞の使い方や、語と語のつながりを考えて、文章を組み立てる力を育てる。また、必要に応じて事前に例文やヒントなどモデルを掲示し、全ての児童が見通しをもって取り組めるようにする。
- ・学習者用端末を効果的に活用し、取材や構成の工夫、推敲や共有の充実などを図り、どの児童にも目的

に応じた文を書く力を付けられるようにする。

⑤「読む力」を高める。

- ・各学年で身に付けるべき事柄を明確にし、年間を通し、らせん的に繰り返し指導する。
- ・文章の内容や図、表などから必要な情報を正確に選び出す学習の充実を図っていく。必要とされることを明確に言葉や簡単な文章にして考えるなど、問題解決の過程をスモールステップで指導していく。
- ・読み取ったことや読んで感じたことを様々な形で表現する活動を通して、論理的に読み、自分の考えを形成することの良さを繰り返し経験できるようにする。
- ・デジタル教科書や学習者用端末を用い、文章の必要な部分を比べたり、取り出したりしながら、言葉に着目して内容を正確に読むことができるようにする。

⑥主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・主体的に考えさせるために、児童が感じた疑問を大事にし、発問を工夫する。
- ・答えが一つではない発問を行い、友達と意見を交流させることで、対話的な学びの場を設定する。
また、学習者用端末などを用いて、どの児童にも自分の意見を発表する機会を保障し、考えの交流が活発に行われるようにする。
- ・一人学び→学び合いへと発展させる協働的な学習を取り入れる。
- ・一方的な発問ではなく、根拠や理由・他の表現を問うことにより児童の思考力を育てる。

⑦学習者用端末を活用する。

- ・ドリルパークを用いた漢字の習熟練習やミライシードを活用した考えの交流、スライドを用いた発表、動画を用いたスピーチや発表の記録など、基礎基本の定着から深い学びまで、ねらいに合わせた活用を発達段階に応じて取り入れていく。

⑧いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・協働的な学習により、一人一人の考え方が認められるようにし、学びを豊かにする。
- ・様々な読み物や物語の読解から、人物の心情に迫るとともに、人物の生き方や命の大切さに気付かせる。

⑨皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・ペア学習、グループ交流、学年間交流を進め、新たな気づきを促していく。

⑩地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・話すこと・聞くことや書くことの活動において、地域の題材を取り上げる機会を設け、その取組を通して、地域への愛着を深め、自分たちの力を地域のために生かしていこうとする心情や意欲をもたせることができるようにする。

(2) 社会科の授業創造プラン

①体験活動を取り入れる。

- ・地域探検や農家、スーパーマーケットなど、市内の身近な施設を見学し、自分の生活と関連させて捉えることで、学習意欲を高めることができるようにする。
- ・出前授業を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりして、専門家から話を聞いて理解を深めることができるようにする。
- ・地域教材を活用したり、フィールドワークを取り入れたりして、生活科から社会科の学習への移行がスムーズにできるようにする。
- ・見学をするときの視点を明確にし、記録のとり方について具体的に指導する。
- ・学習内容と自分の生活との関わりが実感できるような体験活動を充実させる。
- ・授業の中でニュースや時事、外国での出来事などを取り上げ、児童の興味や関心を高める。

②資料活用の技能を育てる。

- ・教科書や資料集に掲載されている資料を読み取る活動を積極的に取り入れる。その際、写真やグラフで注目すべきところなど、読み取りのポイントも合わせて教える。
- ・資料から多くの情報を得ることで、思考を広げていけるよう指導する。
- ・資料をもとに、調べた内容を新聞やパンフレットなどにまとめる活動を取り入れる。その際、社会的な事象を読み手に分かりやすく伝えることができるよう、情報を精査したり、提示の仕方を工夫したりして、まとめる力を身に付けさせる。
- ・社会的な事象をまとめる際、国語科で学習する文章表現の技法を活用したり、算数科「表とグラフ」の学習内容を活用したり、資料活用の技能を「総合的な学習の時間」の探究活動に生かしたりしながら、教科横断的な指導を進めていく。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・発問や資料提示を工夫し、「なぜだろう。」と思わせるような導入から学習課題を作ることで、解決したいという気持ちを高め、主体的・対話的な授業展開につなげていく。その際、他者と協力して課題を解決することができるよう、協働的な学習形態を取り入れる。

④学習者用端末を活用する。

- ・インターネット、グーグルアース、ジャムボード、ミライシードのオクリンク機能など、端末の諸機能を活用しながら社会的な事象の知識を定着させ、合わせて思考力・表現力を効果的に高めていく。

⑤全てのいのちを大切にし、一人一人の可能性を伸ばす。

- ・体験学習でゲストティーチャーに関わる機会や、歴史上の人物の話に触れる機会を増やし、社会的な事象の営みには、それに関わる人々の「思いや願い」があることに気付かせていく。また、社会に対して積極的に関わろうとする社会参画の態度も合わせて育てていく。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・郷土教育を通して、自分の住む地域である「日野」「東京」への愛着を高めていく。その際、教科書、副読本、地図帳の他に、『歩こう調べようふるさと七生』『ひのっ子新選組探検隊』など、日野市の郷土に関連する冊子も活用していく。
- ・校内研究テーマ「地域がステージの教育活動」とリンクさせながら、児童が学習問題を追究し、互いに協働しながら解決していく中で、郷土愛や社会への参画態度を養い、社会に対して自分の考えをもてるようにしていく。

(3) 算数科の授業創造プラン

①主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・問題提示の工夫により、主体的に考えさせる。(数値や場面を隠す・日常の事象を取り上げる・きまりを見付けさせる・誤答を生かすなど。)
- ・一人学び→学び合いへと発展させる協働的な学習を取り入れる
- ・一方的な発問ではなく、根拠や理由・他の解き方を考えさせることにより、児童の 思考力・判断力・表現力を向上させる。

②学習者用端末を活用する。

- ・ミライシードのドリルパークや学習探検ナビを活用し、個々の学習進度に合わせ、知識・技能の習熟を図る。
- ・クロームブックのオクリンク機能やムーブノート機能を活用し、課題解決の際、自分の考えを発信するとともに、友達の考えも学んで、より良い課題解決の方法を話し合う対話的活動を展開する。
- ・インタラクティブスタディを活用し、個々の学習進度に合わせたドリルの学習をする。

③既習事項の確認、基礎・基本の定着と活用を図る。

- ・レディネステストや東京ベーシック・ドリル診断テストの結果をもとに、単元ごとに必要な既習事項の定着を確認する。
- ・ミライシードのドリルパークや学習探検ナビ、紙のドリルやプリントを活用し、繰り返し練習して知識・技能の習得を図る。また必要に応じて、過去の学年の単元までさかのぼり、つまづき箇所の学び直しを行う。
- ・既習事項を生かして、問題解決型学習を進められるようにする。

④思考力・表現力を育てる学習を重視する。

- ・ノート指導の際、自分の考えの他に友達の考えもノートに書かせ、多様な考え方・解き方があることを捉えさせるようにする。
- ・数学的な表現を用いて、自分の考えをまとめることができるようにする。例えば式を活用する過程では、言葉から式を立てたり、式の意味を言葉で説明したりする活動を大切にする。

⑤具体物・半具体物を用いた作業的、体験的な算数的活動を展開する。

- ・おはじきやタイルを並べる、実物を使う、実物で測るなど、実際に作業したり体験したりすることにより、理解を容易にしたり深めたりする。
- ・時刻や時間、長さなど、日常生活で経験することを学習の中でも想起させる。
- ・具体物の代わりとなる絵や写真、図表などをデジタル教科書や算数ソフトを用いて拡大表示し、単元への興味関心を高め、理解を深める。

⑥一人一人の習熟度に応じた個別指導の充実を図る。

- ・学力向上支援員やリソースルームティーチャーとの連携を図りながら、個に応じた指導を充実させる。
- ・机間指導で、一人一人の理解度を確かめながら授業を行う。
- ・計算練習では、スモールステップを取り入れたプリントなどを活用する。また図形でコンパスなどの道具を使うときは、一人一人使い方をチェックし、確実に道具を使うことができるよう技能の習熟を図る。
- ・発展的な学習内容に児童が意欲的に取り組めるよう、プリントの他、ミライシードのドリルパーク機能を活用する。

⑦東京ベーシック・ドリルを活用する。

- ・日頃の授業における習熟度別指導において、児童が知識・技能を効率的に習得することができるよ

う、東京ベーシック・ドリルを取り入れる。ドリルの診断テストを1学期末までに行い、個別指導が必要な児童には、夏季休業中の夏季講座で補充学習を行う。

- ・確かな学力の定着を目指し、東京ベーシック・ドリルを活用した放課後補習教室（けやき教室）を2年生以上で実施する。

⑧習熟度別指導ガイドラインに基づく学習を充実する。

- ・3年生以上は、習熟度別に「発展コース（どんどん）」・「基本コース（しっかり）」・「補充コース（ゆっくり）」に分け、児童の理解や習熟の程度に応じた学習集団を編成する。2クラスは3展開、3クラスは4展開で編成する。
- ・新たな単元に入る前に実施するレディネステストや、過去の東京ベーシック・ドリル診断テスト、および学力調査等の結果をもとに、児童の理解や習熟の程度などの状況を把握し、それぞれのコースの指導に役立てる。
- ・「補充コース」では、主に、個々のつまずきに応じた段階に立ち戻って知識や技能の学び直しをしたり、反復学習をしたりして、補充的な指導を行う。
- ・「発展コース」「基本コース」では、基礎的知識・技能の習熟と合わせ、学習内容の理解を一層深めたり広げたりする発展的な指導を実施する。その際、ただ難易度の高い問題を解かせるだけでなく、児童の導き出した考えが、「なぜ、そうなるのか」という根拠や理由をもとに説明できるような問題解決的学習を取り入れる。
- ・授業をユニバーサルデザイン化し、「学習内容に応じた教材・教具の工夫」「つまずきに応じたきめ細かな段階的指導」を取り入れていく。具体的には、「刺激量の調整」「場の構造化」「時間の構造化」「スモールステップ化」「視覚化」「共有化」などの工夫をする。その際、学習者用端末を効果的に活用する。

⑨いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・協働的な学習により、一人一人の意見を共有し、友達の意見を踏まえて自分の考えを深める学習を展開する。

⑩皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・めあてに沿って、発問や資料提示等により課題意識をもたせ、課題に対してみんなで協力して取り組み、解決していく全員参加の授業を創る。

⑪地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・人口密度の学習では、日野市を始め、近隣の市町村の人口密度を計算する。
- ・学校支援ボランティアの協力のもと、週2回放課後補習教室「けやき教室」を実施し、つまずきに立ち戻って既習事項の学び直しをする。
- ・長期休業日に、学校支援ボランティアの協力のもと、自主教室（なつひの等）を実施する。

(4) 理科の授業創造プラン

①自然の事物・現象との関わりや、直接体験を通した、授業展開を行う。

- ・児童が自然の事物・現象に多く関われるように、観察や実験を基に授業を展開することで、科学的に問題を解決できる資質・能力の育成ができるようにする。
- ・児童に直接体験させることを大切にし、実験・観察などの機会を重視する。
- ・「仲田の森 蚕糸公園」や「多摩川」などの地域の自然を活用し、児童にとって身近な事物・現象を扱うことで、主体的に問題解決ができるようにする。
- ・学んだことがどのようなことに生かされているのかを理解させることで、学習に対する意欲を育む。

②問題解決の力を育成する。

- ・主に3年生では「問題の見いだし」、4年生では「根拠のある予想」、5年生では「検証方法の発想」6年生では「より妥当な考えをつくること」ができるように指導を重ねていく。
- ・問題解決の流れがはっきり分かるように、板書やノート指導において、問題、予想、実験方法、結果、考察、結論のまとめ方に留意して指導する。また、「見方・考え方」の「考え方」について「比較する・関係付ける・条件を制御する・多面的に考える」ことを十分に指導し、どのように考えればよいのかを理解させ、思考力を育めるようにする。
- ・結果と考察が混同しやすい傾向があるので、「見方・考え方」を十分に働かせたうえで、結果は見たことや事実を書き、考察には結果から分かることを書くなど、何を書くべきなのかを具体的に指導していく。また、結果をまとめる際や、考えを共有する際など、学習者用端末を活用していく。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・主体的な学びを実現していくために、児童が自然の事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験に取り組んでいるか、結果を基に考察を行い、より妥当な考えを作り出しているか、自らの学習活動を振り返り、得られた知識や技能を基に新たな問題を発見できているか、新たな視点で自然の事物・現象をとらえているかなどの視点から、授業改善を図る。
- ・対話的な学びを実現するために、問題の設定や検証計画の立案、実験結果を考察する場面で、まずは自分の考えをもち、その考えを広げるために議論をすることで、より妥当な考えを作り出せるようにしていく。
- ・深い学びを実現するために、理科の「見方・考え方」を働かせながら問題解決の過程を通して学び、身に付けたことを日常生活でも活用したり、新たな問題を見いだしたりするように授業改善を図っていく。

④学習者用端末を活用する。

- ・実験結果では、表や写真を活用して記録をすることで、結果を整理しやすくする。
- ・予想や考察を共有する際は、ミライシードや学習者用端末の機能を活用して、対話的な学びによる思考の交流がより充実するようにする。

⑤いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・仲田小学校周辺の豊かな自然を生かし、生き物への愛着を育んでいく。
- ・生命領域の学習では、学習の中で生物を愛護し、生命を尊重する態度を養う。

⑥皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・ICT機器の活用により、視覚的な情報提供を増やし、内容の理解や知識の定着を深める。
- ・対話的な学びを通して考察をすることで、それぞれの考えが広がったり深まったりし、正しい結論を導き出せるよう指導を工夫していく。

⑦地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・多摩川の泥岩を活用し、川の働きや大地のでき方の理解を深める。
- ・学校の敷地内の豊富な自然や、仲田の森を活用し、生物のかかわりについて指導する。

(5) 生活科の授業創造プラン

①児童の身近な生活圏を、活動や体験の場や対象にする。

- ・児童の身近な生活圏において、人、社会、自然と関わりながら、自らの興味・関心に基づいた、具体的な活動や体験を行う。

②児童が、身近な人、社会、自然と、直接関わる活動を重視する。

- ・児童が身近な人、社会、自然と直接関わる活動を通して対象を認識することを重視し、それらと直接関わる体験活動を多く取り入れる。

③児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習過程にする。

- ・児童の興味・関心を踏まえ、対象との適切な出会いの場を用意するとともに、その思いや願いがさらに膨らむような学習過程を展開していく。

④働きかける対象についての気付きとともに、自分自身の成長に気付くことができるようにする。

- ・具体的な活動や体験を通して、関わる対象への気付きが生まれることを大切にするとともに、一人一人が以前の自分より向上し、成長したことに気付くことを大切にしていく。

⑤児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげていく。

- ・児童が感じ取った事柄を、教師が問いかけたり共感したりするなどの言葉かけや働きかけをして、児童の発言やしぐさの背景を深く理解するようにする。児童の気付きを言葉に表して、意思の疎通を図ったり、児童の思いに共感したりしていく。

⑥主体的・対話的で深い学びを実現する。

「主体的な学び」

- ・児童の生活圏である学校、家庭、地域を学習の対象や場とし、対象と直接関わる活動を行うことで、興味や関心を喚起し、自発的な取組を促している。この点に加えて、表現し、伝え合う活動の充実を図ることが必要である。小学校低学年は、自らの学びを直接的に振り返ることは難しく、相手意識や目的意識に支えられた表現活動を行う中で、自らの学習活動を振り返る。振り返ることで、自分自身の成長や変容について考え、自分自身についてのイメージを深め、自分の良さや可能性に気付いていく。自分自身の成長に気付くことが、今後の学習への意欲を高めることにつながる。学習活動の成果や過程を表現し、振り返ることで得られた手応えや自信は、自らの学びを新たな活動に生かし、挑戦していこうとする児童の姿を生み出す。こうしたサイクルが「学びに向かう力」を育成するものとして期待することができる。

「対話的な学び」

- ・身の回りの様々な人々と関わりながら活動に取り組むことや、伝え合ったり交流したりすることが大切である。伝え合い、交流する中で、一人一人の発見が共有され、そのことをきっかけとして新たな気付きが生まれたり、関係が明らかになったりすることが考えられる。他者との協働や伝え合い、交流活動は、一人一人の児童の学びを質的に高めることにつながる。また、双方向性のある活動が行われ、対象とのやりとりをする中で、感じ、考え、気付くなどして、「対話的な学び」が豊かに展開されることが求められる。

「深い学び」

- ・思いや願いを実現していく過程で、一人一人の児童が自分との関わりで対象を捉えていくことが生活科の特質である。「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かした学習活動が充実することで、気付いたことを基に考え、様々な気付きを生み出し、新たな学びを獲得するなどの「深い学び」を実現することが求められる。低学年らしい瑞々しい感性により、感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを支援していく。

⑦学習者用端末を活用する。

- ・学習者用端末を活用し、写真を撮って交流を深めたり、日頃体験できない場所や事象などを映像で見たりして、一人一人の学びを広げていけるようにする。

⑧いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・「いのちの大切さ」を基本とする学習
- ・体験学習の重視
- ・人との関わりを深める授業

1年生「がっこうだいすき」（人権感覚）、「きれいにさいてね」

「いきものとなかよし」、「もうすぐ2ねんせい」

2年生「ぐんぐんそだてわたしの野さい」「どきどきわくわくまちたんけん」（人権感覚）

「生きものなかよし大作せん」、「あしたへジャンプ」

⑨皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・集団生活の中で見いだした課題を、一人一人が考え、みんなで話し合うことを通して、より良い知恵に高めていく学習に取り組む。

⑩地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・地域の人たちとの交流を大事にし、その中から気付いたことや感じたこと、考えたことを基に、自分がどう行動したらよいのか考えを深め、実践していけるようにする。

(6) 音楽科の授業創造プラン

①音楽科の授業において、以下のことを重視する。

- ・課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成し、音楽と生活との関わりに関心を持ち、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育む。
- ・音楽に関する用語や記号を音楽活動と関連付けながら理解することなど、表現と鑑賞の活動の支えとなる指導を行い、音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力を育む。
- ・既存の作品を演奏するだけではなく、自分たちで思いや意図をもち音楽をつくる楽しさを体験させる観点から、創作活動「音楽づくり」を行う。また、音楽の面白さやよさ、美しさを感じ取ることができるように鑑賞活動を行い、根拠をもって自分なりに批評することができるような力を育む。

②我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を実現する。

国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められる中、我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基本として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに、他国の音楽文化を尊重する態度などを養う観点から、学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

「主体的な学び」の実現のためには、音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要である。このことが、イメージや感情を喚起させる要因となった音楽的な特徴を探ったり、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景との関わりを考えたりすることの原動力となり、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさを見いだすことに関する見通しをもつことにつながる。また、音楽表現を創意工夫したり音楽のよさや美しさを味わったりする過程でもったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情及び人間の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えさせ、学んだことの意味や価値を自覚させることにより、音楽を生活や社会に生かそうとする態度を育成し、次の学びにつなげていく。

「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えをもったり音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく。

「深い学び」の実現のためには、児童が音や音楽と出会う場面を大切に、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わることができるようにする。その際、知覚・感受したことを言葉や体の動きで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感したりする活動を適切に位置付ける。曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び表現方法、音楽様式、伝承方法の多様性などの音楽文化について理解することや、どのように音楽で表すかについて表現意図をもつこと、また楽曲の特徴や演奏のよさや美しさ、自分や社会にとっての音楽の意味や価値は何かなどの価値判断をすることに関する思考・判断を促し、深めることにつなげていく。

④学習者用端末を活用する。

- ・端末を利用して、自分や友達の演奏映像を見たりして、振り返ったりよさを見付けたりする。
- ・音楽作成用のアプリ等を利用し、自分で音楽をつくったりする。

⑤いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・プロの打楽器奏者を招き、身近な木や石、動物の骨などが昔から楽器や対話の道具として使われ、人々の生活の支えや生きる糧として音楽が親しまれ続けてきた歴史や、打楽器の鳴らし方によってさまざまな音が鳴らせることを学ぶ。
- ・音楽を通して、文化の伝承の喜びと尊さを感じ、これからも音楽を通して、いのちの輝きを感じることができるようにする。

⑥皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・合奏や合唱の活動を通して、みんなで音楽を作り上げることの素晴らしさや達成感を実感する授業を行う。

⑦地域の中で感じ、考え、行動する、地域とつながった学びをしていく。

- ・音楽の授業の中で学習した成果を、身近な人たちに披露する機会をもつとともに、自分たちができる活動について考えようとすることができる。
- ・和楽器の演奏経験のある地域の方を招いて、箏などの和楽器指導の際、外部指導者として関わってもらう。

(7) 図画工作科の授業創造プラン

①図画工作科の授業において、以下のことを重視する。

- ・創造することの楽しさを感じさせるとともに、思考、判断し、表現することの基礎的な能力を育てる。
- ・生活の中の造形に関心をもって、主体的に関わっていく態度を育む。
- ・創造性を育む造形体験を充実させ、形や色などを通して、自分の思いを表現できるように指導する。
- ・良さや美しさを感じる喜びを味わせるとともに、そこから思考する力を育てるために、自分の思いや見方を言葉にしたり、作品に対して友達と意見交換をしたりしながら、鑑賞する能力を育てる。
- ・自国や諸外国の伝統的な表現や作品の意味を知り、良さや美しさを味わったり感じたりすることができる感覚を育てる。

②主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・これまでの体験や経験を生かすことのできる題材を考え、自分の強い思いを表現につなげられるようにする。
- ・鑑賞会や自分の活動を確かめたり振り返ったりするような場面を設定し、創造的な造形活動における自分の成長や良さ、可能性などに気づき、次の学習につなげられるようにする。
- ・学年や児童の性質に応じて材料や道具を工夫し、児童の主体的な活動を促す。また、自分や素材との対話を繰り返しながら、自分と向き合い作品を作っていく姿勢を育てる。

③学習者用端末を活用する。

- ・端末を利用して、作品の制作過程を写真で残して後から振り返りができるようにする。
- ・コマ撮りアニメや、写真をベースに端末上で絵を描かせるなど、デジタル教材も活用しながら多様な表現方法を学ばせる。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・全てのものには命があるという気持ちを忘れずに、道具や材料、またでき上がった作品など大切にできる心を育む。
- ・植物や人物など命あるものを題材にすることで、生物の形の差異に気づき、生命力について考察を深める。

⑤皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・共同制作や造形遊びなどを通し、友達と共に考えやアイデアを出し合いながら、創造的な表現ができるようにする。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・地域のポスターコンクールなどに参加し、地域のことを考えたり思ったりすることで自分の思いを表現し、地域へ発信する力を付ける。

(8) 家庭科の授業創造プラン

①実践・体験的な活動を通して、生活をより良くしようと工夫する資質・能力を育てる。

- ・児童の実際の生活から出発し、実践的、体験的な活動を通して、基礎的な理解を図るとともに、知識・技能を確実に身に付けられるようにする。また、学習したことを実際の生活に生かすことができるよう、学習過程を工夫していく。
- ・日常生活の中から、課題を見いだすとともに、実践したことを自分で評価したり、改善の方法を考えたりする機会を設けることで、課題解決の力を身に付けさせる。
- ・実践や活動の振り返りを適切に行うことで、どのような力が付いたかを明確にして、実生活に生かしていく意欲をもたせたり、新たな課題を発見して、改善しようとする態度につなげたりできるようにする。

②生活の営みに関わる見方・考え方を身に付けることができるようにする。

- ・各単元の導入的な学習の中で、ガイダンスで触れた見方や考え方を想起し、視点を意識することができるようにする。
- ・技術の習得のみにとらわれることなく、食事や住居、衣服などの役割や働きを捉え、それらと関連付けながら、食事であれば「健康」、住居や衣服であれば「快適」「安全」というような視点を常に意識して、学習を進めていくようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

主体的な学び

- ・何のために学ぶのかという目標を明確にして児童が主体的に学習に取り組めるようにし、見通しをもたせる。
- ・日常生活の中で課題の発見や解決に取り組ませ、自分の生活を自分で向上させようとする意欲につなげる。
- ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得に粘り強く取り組めるよう、教材・教具の使い方や提示の仕方を工夫し、個に応じた指導を充実させる。
- ・生活の営みへの興味・関心を喚起できるよう工夫し、生活の中から問題を見いだして課題を設定することで、主体的な課題解決への取組や、実践を振り返って新たな課題を見付けることにつなげていく。

対話的な学び

- ・課題解決に向け、児童同士で協働したり、意見を共有することで、一人一人が自分の考えを広げたり、深めたりする活動を設定し、よりよい課題解決につなげることができるようにする。
- ・家族や身近な人に尋ねたり、意見を求めたりすることにより、児童が自分の生活についての考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

深い学び

- ・児童が、日常生活の中から問題を見付け出して課題を設定し、その解決に向けて様々な方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するという一連の学習活動の流れを踏まえて学習を進める。
- ・学習の流れの中で、児童が考えて進める場面と、教師が教える場面の組み立てを明確にすることで、学びの深まりを作り出すことができるようにする。

④学習者用端末を活用する。

- ・調理実習の様子や裁縫の様子などを映像で見て視覚的に捉えることで、理解を深める。
- ・写真撮影を利用して、自分の部屋を写真に撮り、生活の改善を実感できるようにする。

⑤いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・日常生活を通して、家族との関わりやつながりを振り返る活動を通して、家族の中で育まれてきたことや周囲の人とのつながりを意識することができるようにする。

⑥皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・日常の中から問題を見いだして課題設定をし、解決方法を考えていく際に、友達との交流や、家族、地域の人から話を聞くといった活動を取り入れることで、より広い視点をもつことができるようになる。

⑦地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・自分や家族が地域の人たちとどのように関わっているかを調べたり、話を聞いたりする活動を通して、地域の一員として、より良い関わりの在り方や、自分にできることについて考えられるようになる。

(9) 体育科の授業創造プラン

①体育科の授業において以下のことを意識する。

- ・運動領域については、幼児教育との円滑な接続を図ること、体力の低下傾向が深刻な問題となっていることや積極的に運動する児童とそうでない児童の二極化への指摘があること、各学年の系統性を図ることなどを踏まえて指導する。
- ・生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を培う観点から、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて指導することができるようにするとともに、低学年・中学年・高学年において、児童に身に付けさせたい具体的な内容を明確にする。その際、指導内容の確実な定着を図ることができるよう、運動の取り上げ方を一層弾力化し、低学年・中学年及び高学年に示されている「体づくり運動」以外の全ての指導内容について、2学年のいずれかの学年で取り上げ指導していく。また、年間を通し、定期的に行う「アクティブタイム」では、遊びの中で多様な動きを経験し、体を動かすことの楽しさを味わえるようにする。
- ・「体づくり運動」については、一層の充実が必要であることから、全ての学年において発達の段階に応じた指導内容を取り上げ指導する。学習したことを家庭などで生かすことができるよう指導の在り方を改善する。また、「体づくり運動」以外の領域においても、運動嫌いの児童を減らせるよう、学習した結果として少しでも体力の向上を図ることができるよう、指導の在り方を改善する。
- ・保健領域については、身近な生活における健康・安全に関する基礎的な内容を重視するという観点から、指導内容を改善する。その際、けがの防止としての生活の安全に関する内容について取り上げ、体の発育・発達については、発達の段階を踏まえて指導の在り方を改善する。また、健康な生活を送る資質や能力の基礎を培う観点から、中学校の内容につながる系統性のある指導ができるよう健康に関する内容を明確にし、指導の在り方を改善する。低学年は、運動領域との関係を踏まえ、健康と運動の関わりなど、運動領域の運動を通して健康の認識がもてるよう指導の在り方を改善する。

②主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・「主体的な学び」の実現に向けて、各種の運動の特性や魅力に触れたり、自他の健康の保持増進や回復を目指したりするための主体的な学習を重視していく。そのために、運動の楽しさや健康の意義などを発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて粘り強く自ら取り組み、それを考察するとともに学習を振り返り、課題を修正したり新たな課題を見出したりできるような学びの場を設定する。
- ・「対話的な学びの実現に向けて、自他の運動や健康についての課題の解決を目指して、協働的な学習を重視していく。そのために、運動や健康についての課題の解決に向けて、児童生徒が他者（書物などを含む）との対話を通して、自己の思考を広げ深めていく学びの場を設定する。
- ・「深い学び」の実現に向けて、児童の発達の段階に応じて、これらの深い学びの過程を繰り返すことにより、体育科の「見方・考え方」を豊かで確かなものとすることを重視していく。そのために、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、より良く解決することができる学びの場を設定する。

③学習者用端末を活用する。

- ・体育の授業の中で、技術を身に付ける過程を可視化するために、ICTを活用する。
- ・保健の授業では、デジタル教材を活用し、より身近なものとして、自分のこととして、考えられるようにする。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・自己の体力や体について知ること、自己への理解を深めるとともに他者に対しての理解を深め、人が尊い命によって生きているということを実感させる機会を作っていく。

- ・保健領域の中で心と体のつながりについて学ぶ際には、心の変化が心身に影響することを十分理解させ、その時の対処法について考える機会をもつ。また、悩みがある時には、周りの人や友達を頼ってよいという雰囲気を学級の中に作っていく。

⑤皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・児童の興味関心を高める教材を用意し、その運動ならではの面白さを味わいながら、自らの成長を実感できる授業作りを行うことが重要である。課題解決を図る際にペア学習やグループ学習といった対話的な学習に取り組み、互いに考えを出し合うことで、より質の高い運動を行うことができるような授業を目指していく。また、技能のポイントを、知識だけでなく、スモールステップで指導することで児童に達成感を味わわせ、運動に対してより積極的に参加しようという気持ちがもてるような授業を目指す。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・生涯スポーツという観点について考えさせ、運動に対して「する・見る・支える・知る」といったことを感じる機会を保障することで、スポーツを身近なものと考えることができるようにする。

(10) 特別の教科 道徳の授業創造プラン

①児童が授業のめあてをつかみ、学習意欲を高める資料を工夫する。

- ・児童の実態や、授業の内容に応じ学習意欲を喚起するために、価値に迫る事前アンケートを取って授業の中で活用したり、登場人物同士の関係や葛藤場面を分かりやすくするなど見やすく構造化した板書にしたりする。

②児童が考えを広げ深めるための発問を工夫する。

- ・児童が、その授業で何について考えればよいのかを明確に示し、児童の思考に沿った発問を用意する。
- ・考える必然性や切実感のある発問、自由な思考を促す発問など、発問を厳選して行う。
- ・自分の考えをもちやすくし、友達の考えと比較できるように、役割演技を取り入れたり、心情メーターを活用したりと表現の仕方を工夫する。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・ペアやグループなど少人数で話し合えるようにし、自分の考えをもてるようにしたり、いろいろな見方や考え方に触れたりすることができるようにする。
- ・個別に考える時間を十分に確保し、一人一人が自分の考えをもって授業に参加できるようにする。
- ・葛藤場面で、自分の立場をはっきりさせて議論させることで、多様な考えに触れ、多角的なものの見方や考え方を身に付けられるようにする。
- ・学んだことが実際の生活で生きている機会を捉え、道徳の学習を振り返る場面を設ける。

④学習者用端末を活用する。

- ・ICT機器を活用することで、自分の考えを表現する幅を広げる。また、それらを活用した交流活動を通して、より多くの意見に触れ、多角的な見方や考え方ができるようにし、対話的な学びを実現していく。
- ・ICT機器の導入に伴い、情報モラルについての指導を行い、正しく活用する力を身に付けさせる。

⑤いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・「生命尊重」「家族愛」「いじめ防止」「人権感覚」に関わる指導を系統的に行っていく。
- ・日頃から個々の良さを認め合える学級の雰囲気を作る。

⑥皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・道徳の授業や道徳授業地区公開講座を通して、多面的、多角的な見方や道徳的価値の理解を、自分自身との関わりの中で深めているかを検証し、意見交換をすることで、自己の考えや価値観をさらに深めていけるようにする。

⑦「地域の中で感じ、考え、行動する」といった地域がステージの学びをしていく。

- ・「内容C 主として集団や社会との関わりに関すること」において、地域における自分の行動と関連付けて考えていけるようにする。また、地域の方や保護者と連携し、ゲストティーチャーとして話をしただく機会を設ける。

(11) 外国語科の授業創造プラン

①他国の言語や文化について体験的に理解を深める。

- ・外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付かせる。
- ・日本語と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる。
- ・ALT との交流を主に、異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、外国の文化などに対する理解を深める。

②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

- ・ALT との挨拶の中で、児童に向けて、調子 (fine、tired、happy など)、日付や序数表現 (January や February などの月の表現や first や second など)、天気 (sunny や cloudy、rainy など) を質問し、定型の返答や日付の理解、天気の違いについて理解を深める。
- ・ALT との会話のなかで、英単語や質問、答え方や発音の仕方の理解を深める。その際、全て聞き取れなくても、リスニングで聞き取れたことを手掛かりにして、会話をつなげていけるよう促す。
- ・活動中に学んだ外国語の言い回しを使い、クイズやゲームなどで児童同士が楽しく交流する場面を設定する。また、英語の言い回しに慣れるよう、繰り返し真似をさせながら表現させる。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

- ・質問の仕方や答え方が身に付くように常時活動として授業に設定し、児童が場面や状況に合わせて会話表現を活用できる力を育む。
- ・文脈を理解して聞き、活用できる会話能力を育む。
- ・言い間違えた時には言い直したり、ジェスチャーや絵などの非言語手段を使ったりして、適応する力を育む。
- ・1時間の授業の流れをパターン化し、見通しをもって主体的に授業に取り組めるようにする。

④学習者用端末を活用する。

- ・スライドを用いた発表、動画で外国語のスピーチや発表の記録をして自分で確認できるようにするなど、単元のねらいに合わせた活用を発達段階に応じて取り入れていく。

⑤いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・英語を使った会話や肯定的な言葉を取り入れながら児童同士が認め合える活動を取り入れる。

⑥皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・交流場面において、既習事項を生かして互いに意思疎通を図る中で、よりよいコミュニケーションの方法を発見させる。

⑦地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・身の回りの物を英語で覚える学習を通して、日常にある物が英語でどのように表現できるか理解を深め、地域の行事や場所、日常を表現する活動を学習に取り入れる。

(12) 特別活動の授業創造プラン

①児童の自発的、自治的な活動を展開するとともに、内容相互の関連を図るよう工夫する。

- ・教科横断的なテーマに即して、教科との関連を図りながら、特別活動にしかできない指導を行う。
- ・学級活動における一連の学習過程を大切にしたい指導を行い、児童の発達段階に即した課題発見や合意形成の方法を身に付けさせる。

②主体的・対話的で深い学びを実現する。

【主体的な学び】

- ・学級・学校生活をより良くしていくために、何に取り組んだらよいのかを自分たちで探っていく活動や、話し合いで決まったことを友達と協力してより良く実践する活動を充実させる。また、活動を振り返り、良い点や改善点を見付け出すことによって新たな課題の発見・設定へつなげていく学習過程を大事にする。

【対話的な学び】

- ・生活上の課題を解決するために合意形成を図ったり、意思決定したりする話し合いの中で、様々な意見に触れられるようにし、考えを広げたり、多面的・多角的に考えたりできるようにする。
- ・異年齢や多様な他者との対話、地域の人との交流を通して、自分の考えを広げたり、自己理解を深めたりできるようにする。

【深い学び】

- ・振り返りの活動を充実させる。そのために、話し合いや活動中に起きたことや具体的な行動、及び考えたこと・思っていたことのそれぞれに留意し、児童に具体的な「気づき」が生じるよう、振り返りの指導や支援を工夫する。

③学習者用端末を活用する。

- ・学級会シートをスプレッドシートやジャムボードで作成し、友達の意見を参考にしたり、自分自身を振り返りを積み重ねたりできるようにする。
- ・ゲーム集会や委員会活動の話し合いに M e e t やジャムボード、ミライシードを効果的に活用する。

④いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・役に立つ喜びを実感し、互いのよさを認め合う活動を意図的・計画的に取り入れ、一人一人が大切にされる学級づくりを行う。
- ・キャリア教育の視点を持ち、個の良さや可能性を生かした場を設定したり、一人一人が役割を果たせる環境を整えたりしていく。

⑤皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・話し合いが自分事となるように、事前に提案理由や目的を共有する。
- ・学級会やたてわり班活動などで、児童が見いだした課題について話し合い、よりよい解決方法を考えていく活動を大切にする。

⑥地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・特別活動で学習した知識や考えを、地域の活動で生かすとともに、地域の中で役立てようとする意欲をもつことができるように、学びを価値付ける。

(13) 総合的な学習の時間の授業創造プラン

①探究的な学習過程

課題設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現のスパイラルによって探究的な学習の実現を目指す。

【課題の設定】体験活動などを通して、課題を設定し、課題意識をもつ。

- ・総合的な学習の時間にあっては、児童が自ら課題を設定し、その課題を解決していくために様々な思考をめぐらせる探究的な学習の過程が非常に重要である。そのために、児童の発達や興味・関心に即して、「なぜだろう」という疑問を抱かせたり、「もっと知りたい」と思えるような学習対象との出会わせ方を工夫したりしていく。3年生では蚕を飼育する体験、4年生では地域安全マップの作成や多摩川をフィールドにした学習、紙漉きを通して地域の良さに気付く体験、5年生では米作りを通して「食」や「環境」を見つめる体験、6年生でボランティア活動やSDGsを意識した取組を通して、身近な環境が抱える課題に気付く体験等を行うことにより、自ら課題を見付け、追及していこうとする意欲を育てていく。

【情報の収集】必要な情報を収集する。

- ・探究課題に応じて、課題解決に必要な情報の収集の仕方を、自ら選び、実践できるようにする。学習者用端末を活用した学習活動を充実させる一方、図鑑や本、新聞、インタビュー、観察や実験、体験活動などから得られる情報も有効であることに気付かせ、様々な情報収集の方法から、適切な方法を選びとる力を身に付けさせていく。

【整理・分析】収集した情報を、整理・分析して思考する。

- ・収集した情報を、分類・比較して相互に関連付けたり、共通点や相違点を見いだしたりして、整理・分析することで、思考を深めていく力を付ける。そのために、授業のなかで積極的に、学習者用端末での作業（ジャムボード等のアプリケーション）、思考ツール、ホワイトボード、付箋などを学習場面に応じて活用し、集めた情報を可視化し、児童が操作しやすいようにする。「比べて考える」「分類して考える」「関連付けて考える」など、思考を具体化する方法を知らせることで、個々の児童が思考を広げたり深めたりする力を育てていく。

【まとめ・表現】気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、表現する。

- ・自身の学習を振り返り、気付いたこと、思考の過程や根拠をまとめたり、伝えたりする手段の一つとして、学習者用端末の活用を工夫する。具体的には、発表会の機会を設けて、プレゼンテーションを行うなどである。その際に、どのような人に対して伝えるか、何のために伝えるかなどの課題意識を明確にすることで、目的をもって表現できるように学習を展開したい。また、まとめたり伝えたりするための適切な方法や形態を選べるよう、多様な方法を経験させるようにする。

②他者と協働して取り組む学習活動にする。

- ・グループ学習や、異年齢集団による学習など、多様な学習形態を取り入れたり、地域の人材を有効に活用したりして、興味や関心を継続して学習活動に取り組めるようにする。

③主体的・対話的で深い学びを実現する。

【主体的な学び】

- ・学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ、振り返り、次の学習につなげることができるようにする。課題設定においては、自分事として課題を設定できるように、自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくりなどの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れ、主体的な学びが実現できるようにする。振り返りにおいては、自らの学びを価値付け、自己変容を自覚して、次の学びへと向かう「学びに向かう力」を培うために、言語を用いてまとめたり表現したりする活動を意図的に取り入れる。なお、振り返りは授業や単元の終末に行うものとは限らず、学習の途中において、見通したことを確かめ、必要に

応じて見通しを立て直すことも考えられ、こうした振り返りを主体的に行う資質・能力を育てることも重視していく。

【対話的な学び】

- ・児童同士の対話、児童と教員・地域の人との対話、先哲の考え方などを手掛かりに考えることなどを通じて、自己の考えを広げる対話的な学びを実現していく。対話的な学びのなかには、じっくりと自己と対話すること、ＩＣＴ機器などで対話することなども含め、様々な形態が考えられる。多様な他者との対話を通じて課題解決に取り組み、自己の考えを相手に伝える力や、他者から情報を収集する力を身に付け、思考を広げたり深めたりしながら新たな知を創造する力につなげていく。

【深い学び】

- ・事象の中から問いを見だし、課題の追及・解決を行う探究の過程に取り組む力を身に付ける。実社会・実生活に即した学習課題について探究的に学び、個別の知識や技能が体系的なつながりを持ち、学びが深まっていくように学習活動を展開する。また、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を総合的に働かせることで、実生活のなかで生きて働く力となるようにする。

④学習者用端末を活用した、主体的・対話的で深い学びの実現。

- ・学習者用端末については、児童が「普段使いの学用品」として使いこなせるようになることで、学習活動をより一層広げ深めることが大切だと考え、使用が効果的である場面で積極的に使用する。インターネットを通じた情報収集や整理、各アプリケーションを用いた表現など、総合的な学習の時間の活動において、多様な実践を試行していくこととする。

⑤いのちを感じ、いのちを伝え合い、生きる喜びにあふれる明日をつくっていく。

- ・用水路の生き物を調査したり、蚕を育てたりする活動を行う。その際に、生き物にも命があることを感じるとともに、それらが関係し合って、生物の多様性が保たれていることなどを理解させるようにする。

⑥皆が参加し、ともに知恵を出し合い、新たな創造をしていく。

- ・各教科で身に付けた力を生かし、他者との対話的な学習活動を通じて、よりよい知識や考えを見いだしていく。

⑦地域の中で感じ、考え、行動する、地域がステージの学びをしていく。

- ・自らが地域を構成する一員としての自覚を持ち、総合的な学習の時間を通して身に付けた力を、地域の活動の中で生かし、地域の中で役立てようとする意欲につなげ、実践していけるようにする。地域の教育資源をマップにまとめるなどして、教材として生かせるよう教師が取り組んでいく。